

# ニュースレター (vol. 8) 平成25年10月発行



## NPO 法人あきた菜の花ネットワーク

〒015-0801 秋田県由利本荘市美倉町30 由利本荘市コミュニティ体育館内  
TEL&FAX: 0184-44-8625 E-mail: tetsu1187pure@yahoo.co.jp

寒さもしいにつり冷気を覚える時節、すっかり日も短くなりましたが、会員の皆様は秋の夜長をどのように楽しんでいらっしゃいますか。

さて、ネットワークが菜の花栽培に関わっている鳥海高原「桃野」でも、9月までに菜の花の播種を無事終えました。また9月に行った農業体験や環境教育事業などの様子を以下に記載しておりますのでご覧ください。

==9月以降の活動報告==

### ◎「桃野菜の花畑農業体験」

主催：鳥海高原矢島まるごとブランドづくり協議会

9月15日(土)～16日(日)、鳥海高原・矢島地域の魅力を体験する「鳥海高原やしままるごと体験ツアー」が開催され、首都圏などからの参加者23名が、この地域の豊かな自然や各種体験などを満喫しました。

ツアー初日には、ネットワークが担当の「桃野菜の花畑農業体験」として、鳥海高原(桃野)で菜の花の種まきやジャガイモの収穫体験などを行いました。参加者の皆さんは、初めて菜の花の種を見た人も多く、「これでいいのかな～？」など他の人と話したり蒔き方を確認したりしながら菜種を蒔き、晴天の中、心地よい汗を流しました。また作業後は、桃野で採れたスイートコーンを食べ、作業の疲れを癒しました。

参加者の皆さんからは、「来年の春、菜の花が咲く時期にまた来たい！」との声が寄せられました。

来春、お待ちしております～！



### ◎「青少年によるエコタウン事業実践のための環境教育プログラムの開発(地球環境基金助成事業)」

—秋田県北部エコタウン事業等視察—

協力：小坂町・大館市

7月に開催した「キックオフミーティングおよびESD(持続可能な開発のための教育)講習会」に続き、秋田県立大学の学生たちと9月26日(木)～27日(金)に、秋田県北部(小坂町・大館市)のエコタウン事業やバイオマスタウン構築等に取り組む企業等にお伺いし、担当者から詳しい説明をお聞きしました。



視察後のワークショップでは、参加した学生から、「住民の意識の高さに驚いた」「地域にあるものを活用することが大切」「ピンチをチャンスに変える」「小さい範囲から行動を呼びかけ実践する」などの意見が出され、県北部の視察は、今後の環境教育プログラムの開発の方向性が見えてくる貴重な機会になりました。

11月2日(土)由利本荘市総合体育館で開催される第29回国民文化祭「科学フェスティバル」エコ部門へも大学生の参加を予定しています。

## <ニュースレター新企画「この人に聞く！」（第8回）>



あきた菜の花ネットワークの事務局メンバーが、秋田を元気にするため日々奮闘している方からお話を伺い、先進的・独創的な取り組みやアイデアを学ぶと共に、会員の皆様にお伝えいたします。第8回目は、鳥海高原（桃野）で菜の花栽培に協力くださっている佐藤重さんです。

菜の花栽培に関わった経緯や、農業の現場から気づいたこと・菜の花栽培の苦労や魅力についてお話を伺いました。

### 「現場の経験が知識の源」：佐藤 <sup>しげる</sup> 重 さん（由利本荘市矢島町在住）

○ネットワーク事務局（以下、事務局）：

早速ですが、お生まれはどちらですか。

○佐藤重さん（以下、重さん）：

矢島で生まれ、地元の矢島小・矢島中・本荘高校を卒業しました。その後、家が農家だったこともあり農業に興味を持っていたので、東京農業大学に進みました。当時大学では学生運動が盛んだったため休講も多く、思うように勉強ができない時代でしたが、由利寮（由利地域の学生が入居する寮）で暮らしていたので、他の大学に進学した学生とも交流する機会も多かったです。

○事務局：

卒業後は、すぐ矢島に戻られたのですか。

○重さん：

いえ、その時は、もっと他でいろいろなことを学んだり、体を鍛えたいという気持ちがあったので、大学の恩師のついでで北海道の別海町で酪農を営んでいる先輩のところへ実習に行き、そこで2シーズンを過ごしました。北海道の酪農のスケールの大きさを目の当たりにして衝撃を受けました。またその時の北海道には、大らかでしがらみがなく開拓精神にあふれた人々が全国から集っていましたので、そのような人との出会いも刺激になりました。北海道で牧草作りや放牧による牛の育て方などを経験し、その後は、大学の恩師が東京で取り組んでいた植物園を作る計画に参加しました。洋ラン栽培が主でしたが、専門知識は持ち合わせていなかったため、徳島で洋ラン栽培を営んでいた大学の恩師の実家に住み込み、洋ランについて学びました。そこでは、徳島から東京の市場に出荷していましたので、徳島と東京を行ったり来たりしていました。

○事務局：

洋ラン栽培や植物園に関わった後は、どうされたのですか。

○重さん：

はい。その後、矢島に戻ってきました。やはり農業の現場に携わりたいとの思いがあったので、地元に戻り、農協で働くことになりました。

○事務局：

地元で仕事として、農業に携わってみていかがでしたか。

○重さん：

農協では、営農指導を担当していたの

ですが、農家の方にお会いしてみると知識の豊富さに驚かされました。特に長年農業をやっている年配の人は、理論ではなく、経験に基づいた知識なので確かです。農家の方から教わった話を元に、本や資料などで調べたりするとまったくその通りだったりすることもありました。

○事務局：

「農業」について勉強するには、やはり部屋の中にいるだけではだめなのですね。

○重さん：

そう思います。もちろん、文献や資料など参考になるものはありますが、私の今の知識も現場で学んだものです。

近年、農薬や化学肥料を使わず、堆肥などを利用する「有機農業」という言葉を聞くことも多いですが、例えば有機農業を実践したとします。有機農業を理論通りにやっても、実際はその通りにいかないこともあります。そんな時に頼りになるのは、やはり長年積み重ねた経験による知識なのです。また何事も結果を出すまでには長い時間がかかります。

○事務局：

農業は、現場の経験こそが、「先生」であり、性急に結果を求めことは難しいのですね。

ところで、重さんはどのような経緯で菜の花栽培に関わられたのですか。

○重さん：

農協に入った昭和52年頃、矢島町では米作りに適さない高冷地で夏大根の栽培をしていました。当時、夏の時期に市場に出回る大根も少なかったため、市場での評判もよく、年間1億円の売り上げがあった時もあります。その後、品種改良が進み、他の地域でも夏大根が採れるようになったことや矢島で夏大根を栽培していた農家の方の高齢化などにより、ここでは夏大根が作られなくなりました。大根は重いので、年配の方が栽培するには負担が大きいです。

またこの地域の畑地は、傾斜も多く、道路整備もされていなかったため、農作業は難儀ですし、農機具の転倒など危険が伴うなどの課題もありました。そこで、そのような課題を解決できないかとの思いから当時の農協の組合長に相談したところ、大規模

な農地整備が行われることになりました。

○事務局：

毎年、「鳥海高原菜の花まつり」が行われている桃野会場もその時整備した場所ですか。

○重さん：

そうです。整備後はインフラが整ったことで、農作物が育てやすくなるはずでしたが、整備したことにより、土壌が変わり、当初の予定通りに農作物を育てることが困難になりました。それでも、この土地に適した農作物があるはずと、いろいろな作物を育て、実証試験を行っていました。そんな時に、ネットワークの鈴木さんから「この場所に菜の花を植えたい」と声がかかりました。

○事務局：

「菜の花を植えたい」と言われたときは、どう思いましたか。

○重さん：

最初は、うまくいくか疑問でした。ただ、花を見るだけではなく、その後、菜種から油を搾るということだったので、おもしろそうだと思います。

○事務局：

そして、当初より菜の花栽培にご協力いただくことになりましたが、実際菜の花を栽培して難しい面もありましたか。

○重さん：

取り組み1年目から菜の花を咲かせることができましたので、最初は簡単だと思っていたのですが、今は手ごわさも感じています。長年やってみて、菜の花は水に弱いですし、どの作物にも言えることですが、気候に左右される敏感さがあり、難しいところもあります。それでも、この場所に菜の花が咲いたとき、「鳥海山にぴったりだ」と、素晴らしい景観に感動しました。このようなことは、今まで育てた他の作物では感じたことがありません。また地元の人でも菜の花が咲き、菜の花まつりを開催したことで「矢島にこのような場所がある」と気づき、喜んでくれていることをうれしく思っています。

○事務局：

私も菜の花まつりに参加して思うのですが、遠方から菜の花を見に来る方が多く来るのも、もちろんうれしいですが、地元の方にも喜んでいただけるのが、本当にうれしいですね。

○重さん：

はい。そしてこれからは、「菜の花まつり」の時期だけでなく、もっと地域の人に興味を持って、この場所に関わってほしいです。

交通の便などの問題はありますが、私はここに来ると、視界が開けるためか、煩わしさから解放され広がりをもった考え方をするようになります。

○事務局：

菜の花栽培に限らず、作物を育てるうえで、現場

からの要望などを教えてください。

○重さん：

農業をしていて思うのは、作った作物をきちんと評価してくれる人と出会いたいという事です。またネットワークからも、もっと現場に声を落としてほしいです。そして結果だけで判断せずに、生育過程も見てもらいたいです。そうでないと現場の状況がきちんと伝わっていないと感ずることがあります。

○事務局：

はい、これからは、そのように努めていきたいと思えます。ご提言ありがとうございます。

それと菜種油の普及についてのご意見も教えてください。

○重さん：

私も親戚などに、菜種油を送り喜ばれています。菜種油は味もよく、栄養価も高いので、プロの料理人と組んで、レシピを考えてもらうことでまた新たな拡大につながるのではないのでしょうか。例えば、今まで菜種油を使ったことのないプロの料理人に依頼してみると、また可能性が広がると思います。

○事務局：

今は、秋田県だけでなく日本の農業が厳しい状況にありますが、農業の魅力はどのようなところにあるとお考えですか。

○重さん：

現在、農業で生活するのが苦しい状況にあり各地で特産品づくりやほかの産地との差別化など、様々な取り組みも進められていますが、私は毎日食べる作物を当たり前のように作り続け、それを食べた消費者から自然に認められるような農業をしたいと考えています。

○事務局：

今日は貴重なお話、ありがとうございました。

☆☆☆【事務局所感】お話を伺って☆☆☆

いつも桃野の畑で黙々と作業をなさっている佐藤重さんから、今回初めてゆっくりお話しをお聞きしました。現場に長年携わっているからこそ分かる農業や地域の魅力について教えてもらい、改めて農業の厳しさ・楽しさなど考えさせられました（と言っても、体得していないので、知ったような気になっているだけですが…）。

この日の桃野は、ガスがかかりあいにく鳥海山は見えませんが、近くの山々の紅葉も始まり、春の桃野とはまた違った秋の風情ある風景が広がっていました。「身近にあるものは見逃しやすい」とよく言われますが、鳥海高原も「菜の花」の時期だけでなく、魅力が満載のことを身近にありすぎて見逃していたことにも気付かされました。

地域を応援！

## 菜の花のミルクレープ（にかほ市産菜種油使用）

にかほ市象潟町にある「パティスリー白川」で菜種油を使ったミルクレープが販売中です。パティスリー白川さんは、創業明治22年という老舗の菓子舗で、現在は4代目の高橋徹さんと奥様の由樹さんが「フランス菓子をベースに、その地域にある自然の素材を活かしたお菓子を作りたい」との思いで、日々素材を探し、お菓子作りに励んでいます。

そんな中、にかほ市で菜の花栽培に取り組んでいることに知り、菜種油を使った菓子を作ろうと試作を重ね、今回の「菜の花のミルクレープ」が生まれました。

パティシエの徹さんによると、商品の試作を始めた当初は、菜種油特有のかおりが強く、主張し過ぎるなど難しさもあったそうです。それでも分量を調整し試作を重ね、絶妙な菜種油の香りのするミルクレープが完成しました。8月から販売を開始し、お客様からの反応も上々とのことです。

販売・接客などを担当している由樹さんは、「お客様に菜の花栽培の様子や背景もお話することで、商品に説得力が増し、自信を持っておすすめすることができる」とお話されていました。徹さんも「生産者の顔が見えるということは大事。お菓子を作るときに、原料の生産者や買ってくれるお客様の顔が浮かぶと、より良いものを作りたいという気持ちになる」とのこと。

パティスリー白川さんでは、菜の花ミルクレープ以外にも、仁賀保高校とのコラボ商品クッキー「がんばれ！とうほくっきい」や、にかほ市商工会鱈魚醤事業の一環で、鱈しょっつるを使ったどら焼き「たらどら」など、様々な取り組みを行っています。徹さん・由樹さんは、『地域のために、地域の方と一緒に喜び、また地域の良さを外にアピールしていきたい』と笑顔で話してくれました。



4代目の高橋徹さん（右）と奥様の由樹さん



菜の花ミルクレープ

菜の花の活用として、パティスリー白川さんのおかげで、「スイーツ」という新たな形で菜種油をみなさんに召し上がっていただくことができました。ネットワークでも、さらに多くの方に活用してもらえるよう菜種油の使いやすい方法や菜の花・菜種油にまつわる情報提供などについて今一度考え、「菜の花で地域を元気に！」していきたいです。

「パティスリー白川」 住所：にかほ市象潟町字2丁目塩越21  
電話：0184-43-3352

### <編集後記>

○「なたね油を誰に買っていただくのか?」。ネットワークが長年抱えている課題に対する答えの一つを高橋さん夫妻から教えていただいた気がします。県内各地に（数はそれほど多くないかもしれませんが）なたね油を好んで使っている人が存在します。そうした方達になたね油の良さを同うことが、なたね油の売れ行きを伸ばすための早道かもしれません。会員の皆様の周りにそうした方がいれば、ぜひ事務局までご紹介ください。県内何処でも私たちが伺います。（渡部）

○イベント真っ盛りの季節です。今年も松風祭（秋田県立大学秋田キャンパス）、矢島高校学校祭などに出展させていただき、菜種油を紹介しています。お客様から、「菜種油、去年買っておいしかったからまた買うわ」と言っていただくことがとてもうれしいです。「菜種油の美味しさ・栄養価」「なぜ菜の花を植えているのか」ということをもっと皆さんに知ってもらえるように頑張ります。（宮崎）